



“よねやま”から広がる新しい世界 ②①

米山がひらく未来、平和への道



札幌南 R C
(第 2510 地区 北海道)

2014 - 15 年度ガバナー

羽部 大仁 さん

日韓ロータリーの距離を縮めた功労者

ロータリーに入会してから長い間、米山記念奨学事業には人並みの関心しかありませんでした。私が米山に目を向けるようになったのは 1993 年、当時面倒をみていた財団奨学生が大学院への進学を希望し、米山奨学生として推薦し採用されたことがきっかけです。その頃は指定校推薦制度ではなく、クラブが奨学生候補を推薦することができたのです。親代わりだった私は安堵し、彼を通じて米山を身近に感じるようになっていったのです。

李英愛さんがクラブにやって来たのは 2002 年。金子勻会員がカウンセラーで、彼が亡くなってからは戸井敏夫会員が引き継いでくれました。二人とも李さんを自宅に招くなど、良い関係づくりに努めてくれました。私はといえば、李さんの凛とした美しさに、少女の近寄りがたさを感じていたと思います（笑）。

奨学期間終了後も彼女の卓抜した語学能力を頼って、当地区の姉妹地区である韓国の第 3700 地区、また韓国姉妹クラブとの通訳をお願いしています。両地区の地区大会で毎年のように登壇するので、彼女はどのロータリアンよりも有名なのではないでしょうか。韓国の会員と接する機会の多い私たちのために、李さんは多忙な仕事の合間を縫って韓国語を教えてくださいました。私は落第生ですが、ガバナーとして訪問した際には韓国語でスピーチしたいと思い、李先生の厳しい特訓を受け、第 3700 地区の地区大会で万雷の拍手を受けることができました。

彼女の存在で意識した、平和につながる道

2015 年 3 月、当クラブがスポンサーとなり、日本で 2 番目のロータリー衛星クラブ、札幌南ラ

イラックロータリー衛星クラブを創立しました。このクラブは米山学友と元ローターアクターで構成され、李さんを含め 11 人での船出となりました。李さんは今年度、地区米山学友委員となり、私以上に卓話に引っ張りだこ。彼女が話せば寄付が増えると評判が立つほどです。

李さんは会員になって以来、毎年、米山記念奨学会に 10 万円を寄付しています。非常勤講師で生計を立てる彼女にとって、それがどれほど貴重なお金か……。お礼を言うと、涙ぐんで「ようやく少し、恩返しができるようになりました」と言うのです。これこそ「超我の奉仕」だと頭が下がります。われわれはすぐに見返りを求めてしまいがちですが、利他の行は菩薩の修行、ロータリーの「超我の奉仕」を自分の胸に照らし、他人に役立つことを自分の喜びとしたいものです。

李さんと出会ったことで、奨学金の終わりが縁の切れ目という、諦めにも似た考えが消えたように思います。どの奨学生も良い人材ですが、李さんのようにロータリーが大好きで、しかもわれわれの仲間となり、これからのロータリーの未来を支えてくれる学友に出会えたことは、非常に幸せなことです。現在、日本にとって“近くて遠い国”は、中国と韓国と言えるでしょう。奨学金は、直接的には個人の学費を支援するものですが、国籍の壁を超えて交流し、真の友人となることで、米山から世界平和につながる道が必ず開かれるものと確信しています。日本からの 3 人目の国際ロータリー会長となった田中作次氏のテーマは「奉仕を通じて平和を」でした。まさに国際理解と世界平和はロータリーの悲願。米山奨学記念事業は、その大きな力となるはずで



第三七〇〇地区の地区大会で。(右から)李さんと羽部氏、韓国のバスターガバナー二人に挟まれ、羽部氏令嬢のさやかさん

ロータリー衛星クラブの会員となった元米山奨学生・李英愛^{イ ヨンエ}さんは、ロータリーの一員になったことで意識が変わり、素晴らしさを実感しているそうです。そもそも李さんをロータリーへと結びつけたのは、米山との縁、それを支えたクラブ、会員との出会いからでした。また、李さんを迎え入れたことで、世話クラブや会員にどのような変化が起き、自身の心には何が生まれたのか、クラブを代表し、羽部大仁^{はぶ だいにん}パストガバナーに語っていただきました。



米山学友
李 英愛^{イ ヨンエ}さん

出身：韓国
奨学期間：2002 - 05
学校名：北海学園大学大学院

経験が育んだロータリーとの縁

奨学生当時は、男性ばかりの例会が苦手で、緊張のあまり食事が喉を通りませんでした。うまく立ち回ることができず、かわいげのない奨学生だと思われたかもしれません。そんな私でしたが、奨学期間に博士の学位が取れないことがわかると、体調を崩して退会を決めていたカウンセラーの金子さんが「私がしてあげられる最後の仕事だから」と、延長支援のために奔走してくれたのです。クラブが奨学金の半額を負担しての1年を合わせ計3年間、他の奨学生の3倍もお世話になり、また、韓国の地区やロータリークラブとの通訳を任せていただいたり……。そうした経験の中で、「これからもずっと、ロータリーとの縁を大事にしていきたい」と思うようになりました。

自分を信じて行動するロータリアンとして

私は今、母校の北海学園大学で韓国語を教えています。残念なことに昨今の報道の影響もあって、韓国語の授業を選択する学生は減りつつあり、教え子たち

には、自分の体験から判断するよう指導しています。

6年前に亡くなった私の父は、日本の併合下で教育を受けた世代です。そう聞けば、さぞかし反日思想だったと思われるでしょう。でも、父は日本が大好きでした。日本人は勤勉で物を大切にする民族だと、私は幼い頃から聞いて育ったのです。大切なのは、自分の体験を信じる力です。国と国は損得で動かざるを得ません。一方で、ロータリーの素晴らしいところは、自分たちが良いと信じることを行動に移せることです。

私は2015年、札幌南ライラックロータリー衛星クラブの会員になりました。米山奨学生から会員になったことは私の誇りです。奨学生・学友としてロータリーの活動に参加しても、それは“ゲスト”でしかありませんでした。会員として参加するのは、身に付くものも意識も違います。今は米山学友と会員の両方の立場で、現役の奨学生にアドバイスを伝えています。他クラブでの卓話は私の楽しみの一つで、米山記念奨学事業について関心が薄いクラブへも訪問できればと考えています。私が幹事を務める来年度はぜひ、各会員の経験と知識、力を合わせ、一人前のロータリークラブとして独立できるよう頑張りたいと思っています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または“よねやまだより”についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



上海で米山学友会が総会を開催

上海米山学友会の年次総会が昨年12月17日に上海市内で開催され、学友36人とその家族ら総勢47人が参加しました。学友会の活性化に寄与した5人が年間優秀学友として表彰され、新会員が紹介されたほか、劉京榕^{リュウジンロン}会長からは、小学校への水ろ過装置設置といった奉仕活動の計画や、今後の中国の学友会の展望などが語られました。総会は終始、仲間同士のリラックスした雰囲気の中で行われ、歌やゲームで盛り上がり、学友同士の結束を強める会となりました。劉会長は「今回、わざわざ日本から参加してくれた学友もおり、今後も上海に限らず、中国や世界各地からの学友を歓迎したい」との意向を示しました。



総会出席のため集まった学友たち